

## 英語の時制

英語の時制について簡単にご紹介しています。

より詳しい説明が必要な方は「英語コーチング」の受講をお薦めします。

### まず、思い込みを取っ払きましょう！

一般的に「時制」と言うと（１）現在形（２）過去形（３）未来形（４）現在進行形（５）過去進行形（６）未来進行形（７）現在完了形・継続（８）現在完了形・経験（９）現在完了形・完了（１０）現在完了進行形（１１）過去完了形・継続（１２）過去完了形・経験（１３）過去完了形・完了（１４）過去完了形・大過去（１５）過去完了進行形（１６）未来完了形・継続（１７）未来完了形・経験（１８）未来完了形・完了（１９）未来完了進行形、というように分けられ、説明されています。

でも、まずはこの思い込みを取り払い、もっとシンプルに英語を英語のまま理解してみましょう。

ここでは（１）過去（２）Have シリーズ（３）現在（４）未来、と分けさせていただきます。

<p><b>過去</b></p>	<p>(助) 動詞の過去形</p>	<p>「いま現在」から「遠い距離」を感じる。</p> <p>過去に起きて過去に終わっている。金太郎飴のようにぶつ切りのイメージ。</p> <p>例：I <u>went</u> to New York a few years ago.</p> <p>過去の<b>ぶつ切り情報</b>だから「いつ？」という情報が欲しくなる。</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p><b>過去形のぶつ切り感&amp;「今」から遠い感覚 を上手く利用している表現</b></p> <p>① 仮定法。</p> <p>「あり得ない」という前提で話している。(例：If I were you…)</p> <p>「現在から遠い場所」というニュアンスの感じられる過去形を使うことで、現在（事実）からの距離を感じさせ、非現実さを表現している。</p> <p>② 丁寧表現。</p> <p>助動詞を過去形にすることで遠回しな表現にしている。(例：Can you?→ Could you? Will you?→Would you?)</p> <p>日本語でも「～して頂けましたら幸いです」と遠回しに言うことで（自分が一歩引いて距離感を出すことで）丁寧さを出すことがある。それと同じ。</p> </div>
------------------	-------------------	---

<p><b>Have</b></p>	<p>Have+動詞の完了形</p>	<p><b>そもそも Have と言うのは…</b></p> <p>自分の身体周辺に感じるパーソナルな空間内に「持っている」イメージ。</p> <p>↓</p> <p><b>現在完了形 (Have+過去完了)</b></p> <p>過去に起きたことが<b>経験</b>として<b>パーソナルな Have 空間</b>に入っている<b>イメージ</b>の時、現在完了形を使う。</p> <p>例：I <u>have been</u> to New York.</p> <p>New York に行った<b>経験</b>を大事にしている感がある。</p> <p><b>過去完了形 (Had+過去完了)</b></p> <p>過去に立ち、その時点で <b>Have 空間</b>に入っている<b>経験をみて</b>、<b>振り返っているイメージ</b>。</p> <p>例：When I arrived, the presentation <u>had already begun</u>.</p> <p>「着いた時」という過去の一点を足場にして、その時の <b>Have 空間</b>の状態を伝えている。</p> <p><b>未来完了形 (Will have+過去完了)</b></p> <p>未来に立ち、その時点で <b>Have 空間</b>に入っているであろう<b>経験を予測しているイメージ</b>。</p> <p>例：Your English <u>will have improved</u> by the time you come back from Canada.</p> <p>「カナダから戻ってくる頃」を足場にして、その時の <b>Have 空間</b>はこうなっているんじゃないかな？ということを伝えている。</p> <p><b>継続？経験？完了？</b></p> <p>Have+完了形シリーズは、よく「継続・経験・完了」のどれを表すのか？というように分析されるが、実は<b>どれも「Have 空間に入っているイメージ」が共通点</b>。前から<b>継続</b>していることだから <b>Have 空間</b>に入っているのか、大事にしている<b>経験</b>だから <b>Have 空間</b>に入っているのか、<b>完了したばかり</b>でその印象が強いから <b>Have 空間</b>に入っているのか…という違いだけで、大事なものは「<b>Have 空間に入っている</b>」ということ。</p> <p>○○<b>完了進行形？ (Will have/Have/Had been -ing)</b></p> <p><b>Have 空間のイメージ+進行形の「躍動感、アクション感」の融合</b>。</p> <p>詳しくは現在セクションの進行形参照。</p>
--------------------	--------------------	---

<p><b>現在</b></p>	<p>(助) 動詞の現在形</p>	<p>「いま現在」というピッタリ感。自分との距離はナシ。</p> <p>時空を超越した普遍性のあるものに対して使う（過去も未来もそうだとと言えることや習慣）。</p> <p>例：車を持っています。I <u>have</u> a car.</p> <p>例：地球は大量の周りを周る。The earth <u>orbits</u> the Sun.</p> <p>確定した未来の予定に対しても使える。確定しているから今の自分とのブレがない（ピッタリ感&amp;距離がナシ）。</p> <p>例：明日絶対にあの車を買うよ。I <u>buy</u> the car tomorrow.</p> <p>例：Ready or not, here I <u>come</u>. (かくれんぼの時、鬼が探し始める時の声掛け)</p> <p><b>注意！</b></p> <p>日本語で考える「現在形」は、英語の現在進行形に対応していることが多い。</p> <p>例：私はいま、コーヒーを飲んでいます。→ I'm <u>drinking</u> coffee.</p>
	<p>Be 動詞</p>	<p>省略されていない時は、そこに「在る」という力強さ。</p> <p>例) I <u>am</u> a teacher.</p> <p>例) "I'm not beautiful." "Yes, you <u>are</u>!"</p> <p>省略されている時は、オマケなイメージ。</p> <p>例) I'm <u>your</u> friend. → 大事なものは I=your friend.</p> <p>省略できる＝ルールだから一応そこに置いておきましょう感。</p>
	<p>現在進行形</p> <p>Be 動詞 + -ing</p> <p>Have been + -ing</p>	<p>生き生きとした躍動感やアクション感。</p> <p>例) I'm <u>dancing</u>!</p> <p>アクティブさが低めの動詞は現在進行形の形になりにくい（不可能ではない）。</p> <p>例) I know it. → ⊗ I'm <u>knowing</u> it.</p> <div style="border: 1px solid green; border-radius: 15px; padding: 10px; margin-top: 10px;"> <p>McDonald's 社がキャッチコピーとしていた "I'm lovin' it." というのは、アクティブさが低く現在進行形になりにくい Love という単語を（Love は行動というよりも状態を示しているから）、敢えて躍動感のある現在進行形にしている、オシャレな言語使用。</p> </div>

<p><b>未来</b></p>	<p>Will</p>	<p>will は助動詞（動詞を助ける品詞）。動詞の前にきて話し手の気持ちを添える。</p> <table border="1" data-bbox="560 346 1464 1060"> <thead> <tr> <th colspan="6">助動詞一覧</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>現在形</td> <td>will</td> <td>can</td> <td>may</td> <td>shall</td> <td>must</td> </tr> <tr> <td>過去形</td> <td>would</td> <td>could</td> <td>might</td> <td>should</td> <td>∅</td> </tr> <tr> <td>イメージ</td> <td>意志</td> <td>能力、可能性</td> <td>許可出し感</td> <td>提案、義務感</td> <td>王様命令感</td> </tr> <tr> <td>例文</td> <td>I <u>will</u> marry you.</td> <td>I can marry you.</td> <td>You may marry me.</td> <td>You shall marry me.</td> <td>You must marry me.</td> </tr> <tr> <td>雰囲気</td> <td>あなたと結婚する意志があります。</td> <td>あなたとの結婚は可能性としてあり得ます。（例：親の反対がない、法律的にも金銭的にも問題ない）</td> <td>あなた、私と結婚しても良いわよ。そういう許可をあげるわ。</td> <td>あなたは私と結婚する義務があります。</td> <td>私との結婚は命令だ。他の選択肢は一切ない！</td> </tr> </tbody> </table> <p>will が出る文章は、未来を向いているから「未来形」と思われがちだけど、あくまでも話し手の「意志」。未来を断言している「未来描写」ではない。</p>	助動詞一覧						現在形	will	can	may	shall	must	過去形	would	could	might	should	∅	イメージ	意志	能力、可能性	許可出し感	提案、義務感	王様命令感	例文	I <u>will</u> marry you.	I can marry you.	You may marry me.	You shall marry me.	You must marry me.	雰囲気	あなたと結婚する意志があります。	あなたとの結婚は可能性としてあり得ます。（例：親の反対がない、法律的にも金銭的にも問題ない）	あなた、私と結婚しても良いわよ。そういう許可をあげるわ。	あなたは私と結婚する義務があります。	私との結婚は命令だ。他の選択肢は一切ない！
助動詞一覧																																						
現在形	will	can	may	shall	must																																	
過去形	would	could	might	should	∅																																	
イメージ	意志	能力、可能性	許可出し感	提案、義務感	王様命令感																																	
例文	I <u>will</u> marry you.	I can marry you.	You may marry me.	You shall marry me.	You must marry me.																																	
雰囲気	あなたと結婚する意志があります。	あなたとの結婚は可能性としてあり得ます。（例：親の反対がない、法律的にも金銭的にも問題ない）	あなた、私と結婚しても良いわよ。そういう許可をあげるわ。	あなたは私と結婚する義務があります。	私との結婚は命令だ。他の選択肢は一切ない！																																	
	<p>Be -ing</p>	<p>現在進行形の躍動感を借りて、未来にそのまま進んでいくイメージ。予定。 例：I <u>am buying</u> the car tomorrow!</p>																																				
	<p>Be going to + 動詞</p>	<p>前置詞 to のコアイメージ「矢印の感覚（→）」があるので、「その方向へ進んでいきたい！」という希望が含まれているイメージ。 例：We are going to buy the car tomorrow. 上の Be -ing より勢いは劣るけど、冷静さがある。</p> <p>※前置詞 to のイメージに関してはすずきひろし&amp;ミツイ直子著「イラストで広がる英語の世界 ～前置詞編～」をご覧ください。</p>																																				

洋書を読んだり洋画を観たりして英語に触れる時は  
表面的な単語の羅列の内容理解を目指すのではなく、  
こうした「時制のイメージやニュアンス」をも感じていくように心がけましょう。